

モバイル型シンクライアント「FLORA Se210 RK3」など セキュアクライアントソリューション関連製品を拡充し デスクトップ仮想化市場への対応を強化

情報漏えいの防止や災害時の事業継続性向上などを背景に、デスクトップ仮想化 (VDI^{※1}) 市場が急速に拡大しています。そこで日立は、使いやすさと携帯性を向上させたモバイル型シンクライアント「FLORA Se210 RK3」を投入すると同時に VDIシステムの実行環境となるクライアントブレード「FLORA bdシリーズ」や エントリーブレードサーバ「HA8000-bdシリーズ」のエンハンスも行い、情報漏えいの防止とITリソースの最適化を実現する「セキュアクライアントソリューション」を拡充し、VDI市場への対応を一段と強化しました。

※1 Virtual Desktop Infrastructure

期待が高まる「デスクトップ仮想化」市場

いま日本では、情報漏えいの防止や、セキュリティの高いテレワーク環境の導入、クライアントPCの運用・管理負担の軽減、さらにはBCP^{※2}ニーズの高まりなどを背景に、クライアントPCには必要最小限の機能のみを持たせ、サーバ側でアプリケーションソフトウェアの処理やデータ保管を行うVDIが急速に普及しています。

VDIはPC運用のさまざまな課題を解決できるため、セキュリティと管理効率に優れたシンクライアントを採用し、全社的にVDIの導入を進める企業が増加しており、数万ユーザーが利用する大規模なVDIシステムも構築されています (図1)。

日立は2005年に、シンクライアントで情報漏えいの防止とITリソースの最適化を実現する「セキュアクライアントソリューション」の提供を開始しました。持ち運びしやすいモバイル型

のシンクライアントや、高集積なブレードPCなど、業界をリードする製品を積極的に開発・提供するとともに、シトリックス社やヴェイムウェア社のVDIソフトウェアを活用したシステムを多くのお客さまに提供してきました。

セキュアクライアントソリューションは、シンクライアント技術を活用したセキュリティPC「FLORA Seシリーズ」や、クライアントPCの機能をブレード型装置に集約したクライアントブレード「FLORA bd500」、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」、日立アドバンストサーバ「HA8000シリーズ」、エントリーブレードサーバ「HA8000-bd/BD10」などを活用するVDIソリューションです。ユーザーからの接続先として、ブレードPCに加え仮想PC方式やターミナルサービス方式を混在でき、業務に応じた適切な実行方式を選択できることが特長です (図2)。

2009年には、複数の実行方式を共存させ、お客さまごとの業務に応じた適切な環境を選択できるセキュアクライアントソリューション「統

合型」を開発・提供し、国内VDI市場では高い評価と多く企業への導入実績を誇っています。

このたび日立は、セキュアクライアントソリューションのさらなる強化に向けて、シンクライアント「FLORA Seシリーズ」のラインアップにモバイル型の新モデル「FLORA Se210 RK3」を追加するとともに、デスクトップ型「FLORA Se330」の機能を強化、さらに、シンクライアントの接続先として使用するクライアントブレードと、VDIシステムのプラットフォームに適したエントリーブレードサーバも、それぞれ機能強化を図りました。

※2 Business Continuity Planning: 事業継続計画

関連製品の強化ポイント

■使いやすさと携帯性を両立させた モバイル型シンクライアント 「FLORA Se210 RK3」

FLORA Se210 RK3は、13.3型ワイド液晶ディスプレイを採用した新しいモバイル型のシンクライアントです。従来製品比で表示解像度を30%以上向上^{※3}させ、筐体の厚さも30%以上薄型化^{※4}し、解像度向上による使いやすさと、薄型化による携帯性を両立しました。最新の組み込み用OSであるMicrosoft® Windows® Embedded Standard 7 SP1を採用し、最先端クラスのモバイル通信環境への対応や、高度なセキュリティ管理を可能としました (図3)。

このFLORA Se210 RK3は、設定した時間帯にバッテリー駆動へ切り替わる消費電力の「ピークシフト機能」や、最大消費電力を指

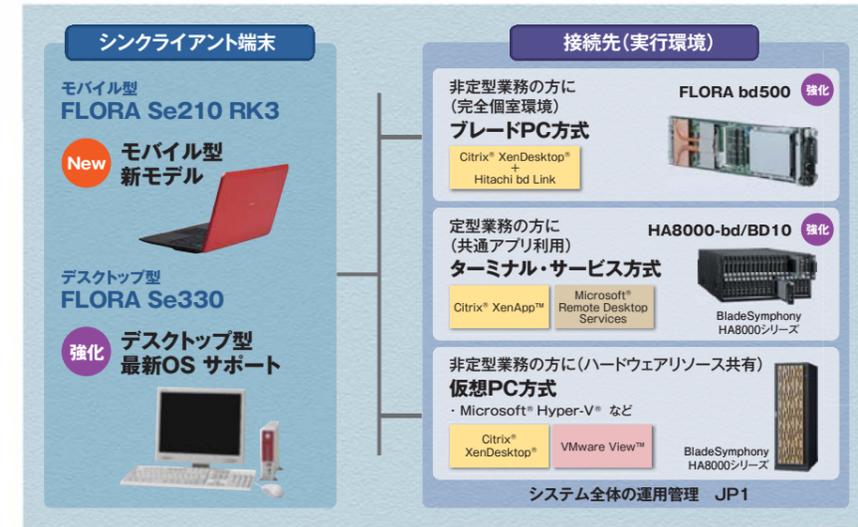


図2 デスクトップ仮想化の提供形式

定値以下に抑制する「省エネ動作モード」を搭載し、電力需給のピーク時においてもユーザーに負担をかけることなく節電対応が行えます。標準バッテリーで約6時間、オプションの大容量バッテリーで約12時間の長時間駆動が可能のため、外出時も余裕をもって業務を継続できます。

※3 2010年7月発売の従来製品「FLORA Se210 RK2」(表示解像度: XGA (1,024×768ドット))と新製品「FLORA Se210 RK3」(表示解像度: WXGA (1,366×768ドット))との比較
※4 2010年7月発売の従来製品「FLORA Se210 RK2」(厚さ: 30.5~36mm)と新製品「FLORA Se210 RK3」(厚さ: 22.9~24.9mm)の最厚部との比較

■省スペースの デスクトップ型シンクライアント 「FLORA Se330」

幅45mmのスリムボディが特長のFLORA Se330は、オプションのディスプレイアタッチメントにより、VESA規格に準拠したディスプレイの背面に搭載した一体型ライクな設置が可能です。今回のエンハンスでは最新OSであるMicrosoft® Windows® Embedded Standard 7 SP1を採用することにより、最新デバイスとの互換性を確保しました。

FLORA Seシリーズは、モバイル型、デスク

トップ型双方ともHDDを内蔵せず、USBポートなどからのデータ入出力も抑制できるため、クライアントPCからの情報漏えいのリスクを大幅に低減しています。日立独自の認証デバイス「KeyMobile」や指静脈認証装置を組み合わせることで、なりすましも防止でき、強固なセキュリティを実現します。

■基本性能を向上させた クライアントブレード 「FLORA bd500 X9」

サーバやノートPCで培った実装・冷却技術を融合させた「FLORA bd500シリーズ」。その最新モデルとなるFLORA bd500 X9では、42U^{※5}ラックに最大320台を搭載できる高い集積度を継承しつつ、CPUにIntel® Core™ i3プロセッサ(2.60GHz)を採用しました。メモリーの搭載容量を最大16GBに拡張して基本性能を向上し、64ビットOSへの対応を強化しました。VDIシステムのユーザーが1台のPCハードウェアを占有できる安定した実行環境として、従来以上に幅広い用途に活用できます。

※5 1U : 44.45mm



図3 モバイル型シンクライアント

■ターミナルサーバ・管理サーバ向けに 機能・性能を強化したエントリーブレード サーバ「HA8000-bd/BD10」

HA8000-bd/BD10は、セキュアクライアントソリューション「統合型」で使用される、Citrix® XenApp™などのVDI関連ソフトウェアのプラットフォームに適した高集積のブレードサーバです。今回新たに、内蔵RAID構成をサポートして可用性を大幅に向上しました。あわせて1TBのHDDの採用により、最大3TBの内蔵ストレージが搭載可能となり、ターミナルサーバ・管理サーバとしてのシステム適用範囲を拡大しました。

使いやすさとセキュリティを両立するユーザー環境(シンクライアント)と、デスクトップ仮想化による柔軟で管理負担の少ない実行環境(ブレードPC、サーバなど)の双方で、さらなる進化を遂げたセキュアクライアントソリューション。日立は今後も、FLORA SeシリーズやFLORA bd500の継続的な強化を図るとともに、VDIソフトウェアベンダー各社とのパートナーシップを戦略的に発展させながら、お客さまの幅広い課題を解決していきます。

デスクトップ仮想化の効果

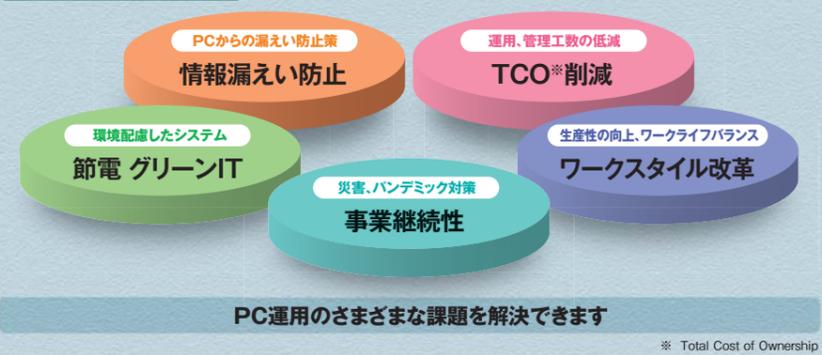


図1 デスクトップ仮想化の代表的効果

● 他社登録商標
※ Windows, Windows Server, Windows Embedded Standard, Hyper-Vは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※ Citrix, XenDesktop, XenAppは、Citrix Systems, Inc.の米国あるいはその他の国における登録商標または商標です。
※ VMwareは、VMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。
※ Intel, Intel Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

● 記載の内容について
製品仕様は改良のため変更することがあります。

お問い合わせ先

HCAセンタ
☎0120-2580-12
利用時間 9:00~12:00、13:00~17:00(土・日・祝日を除く)

情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/flora/>